

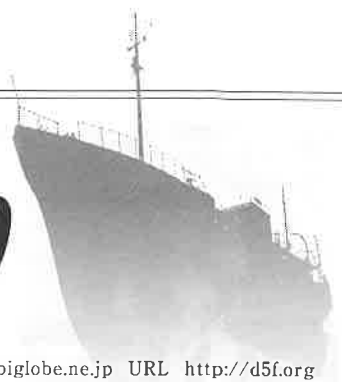
2013.05.01
No.375

(5・6月号)

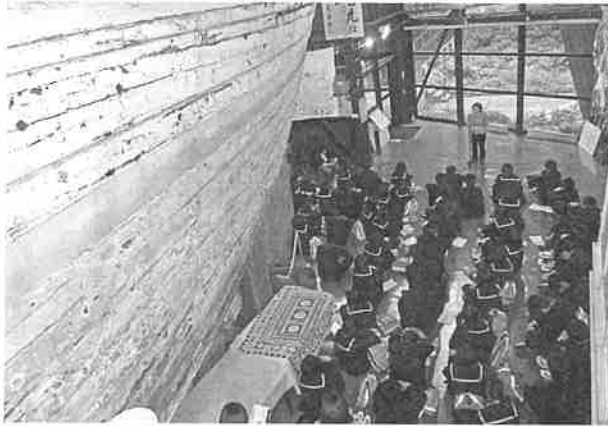
発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

福竜丸だより



被災から六〇年近くたつ今も核問題は焦眉の課題、若い世代にビキニ事件を伝える展示館の役割を心してガイドします。



春の光あざやかに

館内に生徒たちの声が響く

今年も春の修学旅行シーズン到来です。

東日本大震災から二年余。あの年のこの季節は団体見学予約キャンセルの電話を連日受け、沈痛な気持ちで静かな館内と向き合ったことを思い出します。

新学期が始まって間もない四月ですが、二年前に修学旅行が中止になった岩手や宮城の学校、行き先変更になった三重や和歌山の中学校などが再び見学に訪れています。前学年の三学期から折り始めましたという千羽鶴や、平和をねがう合唱のプレゼントを受け、ボランティアガイドの先生たちもはりきっています。

福島の中学生たち

計画的避難区域に指定された、福島県川俣町山木屋地区の中学生九名が、修学旅行で来館。仮設住宅や他地域の借り上げ住宅に暮らし、小学校の一角を間借りしての授業だとのこと

です。隣のクラスの授業の音が聞こえる中での勉強ですが、さまざまに工夫をこらして学習しているそうです。

引率の教員からは、第五福竜丸の乗組員の健康状態やロングラップの人びとの避難生活についての質問もありました。「気持ち晴れることはありません」ともらしつつ、「どうぞ事実を伝えつづけてください」と、私たちスタッフを励まし、館をあとにされました。

これから初夏まで、第五福竜丸展示館には、たくさんの子どもたちの声がひびく予定です。

ビキニ被災六〇年へ

第五福竜丸平和協会は、被災六〇年にむけて水爆開発がもたらした地球規模の影響や被害を総合的にまとめ発表する研究企画や図録出版、展示の一部リニューアルを検討しています。



展示館を設計して

—福竜丸に込められた
歴史を継承する構築物—

杉 重彦

展示館建設にいたる経緯

展示館開館から三七年になります。展示館の設計はその一年半ほど前からです。東京都より、第五福竜丸の上屋工事という案件で、杉建築設計事務所が複数の候補から設計者に選ばれました。

しかしこれに至るまで、放置されていた福竜丸保存への運動、平和への願い、原爆廃止への運動と、多くの方々

の強い意思、多大な努力があり、保存委員会の設立を経て、展示館建設の運びとなりました。

設計の基本理念

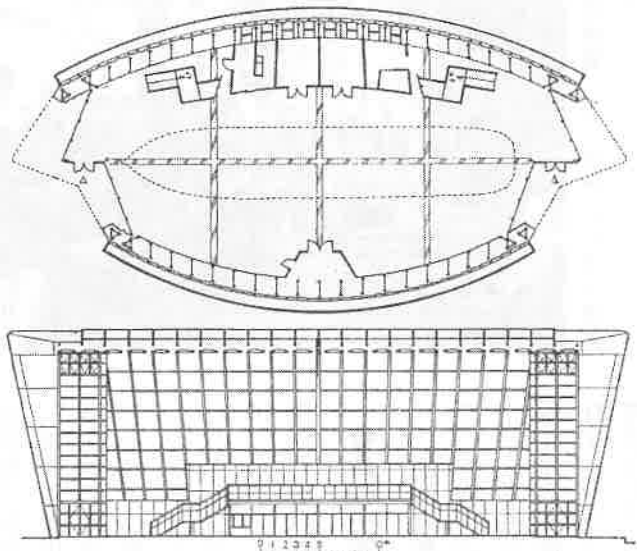
被ばくした第五福竜丸を保存展示するという基礎的な役割・機能、そして核廃絶・平和への願い、意志にどう対応するか。このことが設計の基本理念でありました。

福竜丸からは、船、海、空、時と言ったものが、また平和への願い、意志からは、漠とした勢い、方向、力の様なもの、が浮かびました。この漠としたものから理論的な作業と感性的な作業が相まって設計が進められ、具体的形、肌合といったものが生まれて参りました。

展示館の形

平面図でお分かりの様に大きさが異なる二つの円弧が基本となっており。船の形からも類似性が感じられるでしょう。展示館の北側がやや小さな円弧、南側が大な円弧、その隙間は出入口として外に開いております。

二つの円弧は福竜丸を包み込むと同時に、外への解放



るシェル（貝殻）構造です。これは製作の上の利便性をも持った形で、外壁の鉄板は直線の集合ということ、です。

上部二本の棟の間のトップライトは、上に向かう開放感、願い、発信力といったものを示唆し、福竜丸の上に伸びる形、福竜丸の発信力にも合い通ずるものであります。

展示館外壁の材料 コルテン鋼

外壁の材料のコルテン鋼は、さび状の鉄の化合物膜をもつ鉄板で、特徴としては、(1)耐候性が高い(2)仕上げ材というよりも材料それ自体である(3)時の経過とともに深みが増します。

建設当初の荒漠とした夢の島。そして四〇年後の今日の緑豊かな夢の島。何れの環境にも対応しております。これ

は福竜丸の時を超えた願い、想い、発信力とも合いましたものであります。

理論と感性

設計作業は理論、感性が合いまって行われます。私は大学院五年間を丹下健三先生の研究室で学びましたが、その後丹下先生が設計された代々木の総合体育館、目黒のカテドラル聖堂からは、理論と感性が鮮明に読み取れます。私が研究室当時習得したものは、この理論と感性でありました。

建築は文化

建築とは文化です。最も身近な文化は衣食住です。文化とは、人類が前の時代から受け継ぎ、培い、そして次の時代に伝承して行く人類の知恵である、と言えます。

第五福竜丸展示館への来館者は、既に五〇〇万人を超えております。この展示建物のなかで、第五福竜丸は、被爆の歴史、平和への強い意志を発信し続けて参ります。

(すぎ) しげひこ／建築家、

第五福竜丸平和協会顧問)

*被災六〇年にむけて毎号協会顧問・役員が登場します。

マーシャル訪問 —ロンゲラップの 被曝者を診て—

牟田喜雄

私は去る一月、日本原水協の「ロンゲラップ島民支援代表団」に参加して、一〇日間マーシャル諸島共和国を訪問してきました。

マーシャルは、五つの島と沢山の島がネックレスのように連なる二九の環礁からなる常夏の国です。戦前三〇年間は日本が、戦後一九八六年の独立まで四一年間はアメリカが統治していました。

一九四六〜五八年の一二年間にアメリカはマーシャルのビキニとエニウエトク環礁で六七回もの核実験を行いました。そのなかで最大のものが一九五四年三月のブラボーと呼ばれる水爆実験で、広島原爆の千倍の規模でした。

被曝者に聞く被害の実情

今回の訪問では、イバイ島と首都のマジュロで、一五歳〜七九歳の四五名の聞き取り、診察を行いました。

五四年のブラボー実験による放射性降下物によって汚染されたロンゲラップ環礁にいて被曝した、いわゆる一次被曝者は、八六名でした。今はその多くが死亡し、生存者は二八名になっています。今回事のうちの一名を聞き取り、診察することができました。皆一六歳以下の若年被曝で、うち二名は胎内被曝でした。

一名のうち七名が甲状腺



甲状腺を診る牟田さん
(写真提供・日本原水協)

癌で手術を受けており、あと二名も甲状腺機能低下症で薬を飲んでいました。一〇名が女性で、そのうち八名が流産、死産を経験していました。放射性ヨウ素などによる内部・外部被曝の影響が大きかったことを物語るものです。

ロンゲラップでの被曝時の状況は、朝食の準備をしている頃に光と爆発音を感じ、午後に白粉が降ってきたり、体中浴び、その後から吐き気、嘔吐を認め、皮膚はやけどをし、頭髪の脱毛を認めたといいもので、被曝による急性症状と考えられました。

死の灰を直接あびなかった 二次被曝への影響

五四年の被曝後いったん避難したロンゲラップの人達がアメリカの安全宣言によって帰島したのは五七年。その後、癌や白血病、流産、死産、子供の先天障害が多発し、安全性に疑問を抱いてメジャット島へ再離島した八五年までの間にロンゲラップに滞在して残留放射線に被曝した、いわゆる二次被曝者二六名については、甲状腺癌と思われる

人が三名、甲状腺機能低下症と思われる人が七名、乳癌が一名(甲状腺機能低下症も併発)、両側乳房にしこりがある人が一名ありました。

女性一八名のうち一二名が流産、死産を経験していましたが、子供の発育障害、水頭症、白血病の事例もありました。これらの二次被曝では、主にセシウム¹³⁷による内部・外部被曝の影響が考えられます。

一九八五年〜九八年の統計で、汚染が少なかったマイクロネシア諸島と比較して、マーシャル諸島では、甲状腺癌が約一〇倍、乳癌が約三倍、子宮頸癌、泌尿器の癌が約二倍多かつたという報告もあります。

終わらない困難

今日では、マーシャル諸島の広い範囲にわたって放射能汚染があったことが推定されており、今後も癌や甲状腺機能低下症などの早期発見、早期治療が重要と思われます。また、肥満体型、糖尿病や高血圧症、膝関節痛の方も多く、著明な高血圧、高血糖で

も自覚症状が乏しく、未治療の方が割合多い印象でした。病院が少なく、受診しにくい状況も一因であろうと感じました。

ロンゲラップ島の空間線量は低くなっていましたが、除染が居住区域に限られており、環礁内のロンゲラップ以外の島が除染されていない現状では、ローカルフード摂取による内部被曝が問題です。ホールボディカウンタはありましたが、食品の線量測定体制が必要だと感じました。

安全な島に帰りたいとの住民の願いを実現するために、ロンゲラップ以外の島も含めた十分な除染と正当な補償が必要だと思いました。

長年にわたる被曝による健康障害、生活や文化の破壊、帰れぬ故郷、これらは原発事故故でも同様です。核兵器廃絶、原発をやめて自然エネルギーへの転換をめざさなければとの思いを強くしました。(むた よしお/熊本平和クリニク院長、全日本民医連被爆問題委員)

連載②

晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

《承前》

「被爆者と向き合う私は祈るような気持ちでシャッターを切る」東松照明さんの言葉です。「被爆者は存在をもって原爆の悲惨を明かす。その時、写真は被爆者の存在を証するための視覚伝達の装置となる」東松さんはこのようにも語りました。

写真集「ドキュメント1961」の制作は日本原水協の「宣伝技術グループ」が担当したと記しましたが、具体的には、美術評論家の瀬木慎一、グラフィックデザインの粟津潔、杉浦康平、詩人の長谷川龍生の各氏に、写真評論家の伊藤知巳、重森弘淹両氏が加わり編集が進められました。

被爆一六年後の被爆と被爆



原爆で破壊された爆心地に近い浦上天主堂で撮影する東松さん。筆者撮影

者のドキュメントとしての写真集をつくる——この編集方針を突らせるのは、東松さんが撮り下ろすナガサキの写真でした。一九六一年三月早々に東松さんから写真が届けられました。提出された写真は、前号でもふれたように8月9日のその時と、その時を起点とする被爆一六年のいま、その「二つの時」を鮮烈に結ぶものでした。時計、瓶、天主堂の天使たち、静謐に時を刻印する物証の数々に併せて、私が感動したのは被爆者の生きる姿でした。被写体となった被爆者のそれぞれに想定されるきびしい生活、そのなかでしかもなお醸されている人間の温もりが写し取られていることでした。ともす

れば「被爆」と「被爆者」を括弧で括ったような一面的理解、その認識の範疇を越えて、被爆を見る視点を新たに拓いていると思われました。被爆に隣り合い被爆者とともに在る、という問いかけがありました。後だしの評価になります。国際的にも大きな説得力をもつと思えました。

*

写真集の構成は、東松撮り下ろしを主体とすることになりましたが、写真集が海外向けという点を考慮し、広島・長崎の記録性を整えることになりました。既に出版されている土門拳氏の『ヒロシマ』を「招待作品」として収録することとしたのです（後注）。あいだに丸

木位里・俊子氏の「原爆の図」から三点を挿入しました。築地明石町の土門さん宅に何回か伺いました。掲載ペーシ数が定まらない前のことでしたが、なんと土門さんは「ヒロシマ」のネガブックをそっくり貸してくれたのです。「土門からネガを取り上げた男」、伊藤知巳さんは事あるごとに私を冷やかすのです。知巳さんは土門さんの甥、口添えがあったことは明らかです。

*

判型が正方形に落ち着くまでには曲折がありました。断切りではトリミングが必要ですが、これら作業の中心は杉浦さんと粟津さん。東松さんもこの写真集では写真の選択からトリミングまでをまかせていました。土門さんはネガまで提供していますので一切デザインナ

*

東松さんは六一年の撮影後も、繁く長崎に通われ、居を移しましたのでした。多くの被爆者から慕われました。共通の友人は「東松と友だちだ」と誇らしげに言います。私は言いかえずのです。「みんな東松さんを、びびくさせたんだ」と。

(5めん下につづく)

写真集は英文と露文、序文は湯川秀樹。本体と同じ判型で別冊のテキストを付けまし

た。広島・長崎の被爆の実態、ビキニ事件と第五福竜丸、運動の歴史を解説したものです。執筆は佐久間澄（広大）、草野信男（東大）、畑敏雄（東工大）。被爆写真はここに収録しました。

『Hiroshima - Nagasaki Document1961』に収録した「ナガサキ」により東松さんは第五回日本写真批評家協会作家賞を受賞、粟津さん杉浦さんのブックデザインは日宣美会員賞を受賞しました。

東松さんを推薦した伊藤、重森、本を作り上げた粟津、杉浦、詩文を書いた長谷川龍生、それに土門さんを加えて、思えば、写真集の刊行は、積み重ねてきた原水爆禁止運動の一つの結実でもありました。私はそう思います。

福島を忘れないために

桂川 秀嗣

二〇一一年三月に起きた福島第一原子力発電所の過酷な事故によってもたらされた深刻な放射能汚染は事故後二年を経たいま、セシウム134は半減したとはいえ、その深刻さには変わりはありません。

この事故は、広島・長崎の原爆被災、ビキニ事件による被災、チェルノブイリ原発事故、等にかけて、人類の蒙った特記すべき放射能による被災もたらしたといえます。

原発事故以前の空間線量は、主に自然放射能によるものでしたが、事故以後は以前に比べて一〇倍以上高い地域が広範囲に広がっています。放射能汚染は福島県だけではなく、少なくとも関東一円に広がっていることが確認されています。

私はNHKのETV特集の依頼で、二〇一一年の年末から半年間、阿武隈川水系の源流から河口まで、二百数十カ

所で水、川底の土壌、河岸の堆積物を採取して、放射能汚染調査をおこないました。

その結果、流れている水には放射性セシウムは殆どの場合含まれないものの、その場所の川底の土壌には大量の放射性セシウムが堆積し、それは増水時に川下に移動していくことが明らかになりました。

息長く向き合う

人の生活する市街地はどうか？福島市をはじめいくつかの市町村で、最近開発された、GPSに連動した放射線測定器を持って、人が普段歩いている道路を実際に歩き、刻々の空間線率を記録し、測定後、速やかに測定値を地図上に落とし測定を行っているところを見つけた。これは線量の高いところを見つけたことより、この地で生活するために、むしろ線量の低いところを見つけて通園、通学、日常生活に

役立つデータになればと思っ
て、地域の方々の協力を得て
行っています。今後も続ける
予定です。(Days Japan 4・
5号に紹介されています)。

また、環境汚染調査の一つ
として、福島市の森で、野鳥
を生きたままその内部汚染を
測定しました。これは鳥の習
性を利用して、短時間で生き
たままの測定を可能にしまし
た。野鳥自体の内部汚染は少
ないが、巣材などには環境汚
染の実態が反映していること
が明らかになりました。(NH



写真は今年二月、南相馬市の
新田川河口近く、津波により
全てが奪われ、ひっくり返っ
た農機具がさび付いて残され
ていた。息を呑むような光景。

Kの動画サイト、エコチャン
ネルにその様子がアップされ
ています。)

日頃から被災地との絆を

最近、このような相談を受
けました。都内のある区で、
区営のプールで毎年、夏前に
プールに溜まった水からヤゴ
を採取するイベントを行って
いたが、放射能の問題があつ
て、昨年は中止した。「今年
はどうしたものか？」と、い
うものでした。昨年、区で測
定したデータも見せてもらい
ました。私のこのように答え
ました。

「ぜひ、楽しいイベントと
して行って下さい。ただ、従
来と同じ方法ではなく、安全
に配慮していることを納得し
てもらえるような方法で行つ
てほしいです。」

私たちの周辺(少なくとも
関東地方一円)の環境試料、
例えば土壌からは事故後二年
たった今でも原発事故由来の
セシウム134が必ずといって
いほど、検出されます。これ
らは、私たちの年間に受ける
外部被ばく線量に影響する値
ではありません。しかし、放

三月二六日東京で偲ぶ会が
もたれました。沖縄や長崎でも
同様の催しがあるやにきま
す。語れば寂しさが深まるば
りです。

【注】『Document1961』の判
型は28cm×28cm144ページ。
写真は東松69点88ページ、
土門21点25ページ。別冊英
文解説54ページ。

本文に記したように『ピ
ロシマ』を「招待」収録し
たため、土門さんとの共著
の形にはなりましたが、経
過からして「合作」には入
りません。一部にそのよう
に記す評言・紹介がありま
すので註記しました。

(やまむら しげお／第五福
竜丸平和協会顧問)

射線に安全という値はないの
で、「怖がる自由」はあります。
「無視できる」と放置したり、
「あきらめたり」することな
く、生活の一部として放射能
と向き合う姿勢、それこそ「被
災地との絆」を持つようにし
たいものです。

(かつらがわ ひでつぐ／東
邦大学名誉教授、協会評議員)

ふたつの連載をはじめます！

来年は、ビキニ水爆実験から六〇年です。メモリアルイヤーにむけての新企画を連載します。

第五福竜丸平和協会では乗組員の日用品・衣類などの現物資料のほか、写真や紙票資料

など常設展示では紹介できない資料を数多く所蔵しています。近年寄贈をうけた資料なども含めて、毎号学芸員が紹介します。また、核をめぐる国内外の情報などについて「六分儀」コーナーで紹介します。

第五福竜丸の水爆実験による被ばくが全国報道された三月一六日以降、指定を受けた塩釜（宮城県）、東京、三崎（神奈川県）、清水、焼津（静岡県）の漁港で検査が開始されます。

当初は魚体表面から10センチ離して測定し、放射線のバックグラウンドを超えた100cPm（カウント毎分）以上あれば「汚染魚」として廃棄処分する方針を採用しました。

『放射能汚染魚類に関する資料』（厚生省 一九五四年一月一四日）各港で放射性物質が検出されたマグロ等を解体し、国立衛生試験所で体表、臓器、白肉など各部位を測定、科学分析の結果が記されています。そして放射性汚染魚を食べた場合の人体への影響を考察した報告と参考資料が掲載されており、この

① 厚生省資料



ときの基準としたのが、当時米国立標準局が刊行した「ハンドブック52」で、放射性核種の人体における許容量の考え方でした。五福竜丸以外の被災船です。また興味深いのは宮城県の報告書に収録されている関連の厚生省通達です。先の研究結果をふまえて、「以上のような

『魚類の人工放射能検査』（東京都衛生局）『放射能対策に関する報告』（宮城県衛生部）『放射能対策の経過報告』（大阪市衛生局）この三冊はいずれも一九五五年に出された事業報告書で、塩釜、築地、大阪の三港での検査結果が記録されています。いわゆる「第

な汚染の程度であれば、かりにこれを多量に連日長期にわたり食用に供したとしても、現在国際的に承認を得ている許容量以下である」として、年内で検査を打切る根拠としたことがわかります。詳細は『ビキニ水爆被災資料集』にも掲載しています。

船を見つめた瞳

夢の島公園を散歩中に偶然立ち寄る方、陸上競技の合間に訪れる中高校生、パーベキ

ユー広場に遊ぶ家族連れ……。修学旅行生などたくさんの方が来館され、見学後にアンケートに感想を記入しています。三月・四月の「船をみつめた瞳」です。

*

- 福島第一原発事故で、核兵器の放射能も原発の放射能も同じであることを思い知りました。原爆、水爆、原発みな同じ。平和利用などありえませんが。（58歳 東京 女）
- 核実験のあまりの多さにおどろいた。当時署名があったのに、すぐには実験が減らなかつたのかを考えていきたい。（13歳 埼玉 男）
- 冷戦の間たくさん原水爆実験があったことが残念。人がびとが努力して、いま原爆や水爆実験が行われていないことは感謝すべきことだと思いましたが。台湾にも反核運動があつてたくさんの方ががんば

つています。いっしょに平和を守ろう！（29歳 台湾 女）
● 過去におこつたこの大事件をくわしく知ることで、これからの日本を支えられる人になるための知識となつた。（15歳 東京 男）

● はやく島に戻れるようになってほしい。（13歳 東京 女）
● 放射能をなくすことはできないけど、これ以上ださないうちに私たちが大人になつたらそうしていきたいと思えます。（13歳 東京 女）

● 10年ぶりに訪れ、あらためて事の深刻さを再認識した。第五福竜丸やマーシャルの人たちの記録を途絶えさせてはいけない。（40歳 男）
● こわいから ばくだんはつくってはいけなとおもつた。（7歳 東京 男）
● 真実を知ることの大事さ、すべてのことがつながっている。もつともつと一人ひとりが事実の重大さ、いまおこっている事、いま何ができるかを考えなければならぬと思つた。（50歳 女）
● 70年代に江東区に住んでおり幾度となく訪れていました（次ページ4段目につづく）

三月四日～五日、ノルウェーの首都オスロで核兵器の非人道性に関する国際会議が開催されました。会議はノルウェー政府の呼びかけで開催されたもので、一二七の国と国連機関、赤十字国際委員会、そしてNGOの代表が参加しました。

この会議は、二〇一〇年のNPT再検討会議の最終文書において核兵器使用の人道上の問題が言及されて以来高まりを見せている国際的な機運を反映するもので、会議を主催したノルウェーは二〇一〇年の最終文書にその文言を明記させるために尽力し、核廃絶の分野で国際社会をリードする国の一つです。

会議の行われたオスロは、クラスター爆弾禁止に関するオスロ宣言が採択され、対人地雷禁止条約が起草されるなど、非人道的な兵器の禁止に關しては象徴的な都市です。

今回のオスロ会議の最大の特長は、そういった核兵器の非人道性に焦点を当てたという点。これまでのような安全保障上の観点ではなく、実際に核兵器が使用された場合に起こり得る人道上の壊滅的

な被害から、国際人道法に照らしあわせて、核兵器を禁止していくための道筋を作ることを目指しています。

三つの合意

会議では、最終的に次の三つの結論が示されました。

●いかなる主体も、核兵器使用による非人道的で壊滅的な結果に対処することができず、被害者の救援は困難で

六分儀
核兵器の非人道性に関する「オスロ会議」

あり、そのための能力を確立することは不可能である。

●核兵器使用と実験による歴史的教訓は、核兵器使用が短期的、長期的に關わらず壊滅的な被害を与えることを示し、政治的状況が変化

した今日でも依然として核依存による破壊の可能性は続いている。

●いかなる原因であろうと、核

兵器使用による影響は国内に収まらず、地域的であり地球規模であれ、著しく広範な国家や人々に及ぶ。

問われる日本政府の姿勢

今回の会議には、米、露、英、仏、中の核保有国が参加を拒否し、同じく保有国のイスラエルと北朝鮮も欠席でした。しかし、こうした核保有国の不参加を問題視する見方がある一方で、核兵器を廃絶していかうという国々が集まり、忌憚のない議論が活発に、そして熱気に満ちて行われたと伝えられています。

●日本からは長崎原爆病院の朝永万左男院長、日本被団協の田中熙巳事務局長を含む四人が政府代表として参加しました。日本政府は昨年一〇月の国連総会で出された三四か国の核兵器非合法化への声明に参加を拒否するなど、核廃絶への努力への足を引っ張っているのが実情で、核兵器の非人道性を最もよく知る（？）日本の姿勢が問われてもいます。(H)

●六分儀とは天体の高度や角度により船の位置を測る道具

が、転居すると遠のいて心からも消えそうになっていました。「3・11」からあらためて核と向き合うこととなり、30年ぶりに訪れました。世界から核兵器をなくすために、残りの人生を生きたいです。

(70歳 東京 女)

●被曝の記念として、すなわち我々の生活の指針として、展示を感謝します。

(63歳 東京 男)

●船に乗っていた方たちのことは知っていましたが、マリーシャル諸島の人たちのことは全く知らず、意識すらしたことがなかった。展示を見てその無知を恥ずかしく思うとともに悲しく感じました。

(28歳 埼玉 男)

●核問題が身近かつ世界に広

がる問題だとよくわかりました。(58歳 東京 女)

●放射能の雨が降ったことを初めて知りました。広島・長崎・第五福竜丸・福島原発の風化を防ぐことが重要ですね。(46歳 東京 男)

●私は一歳五カ月のとき広島で被爆しました。おりづるプロジェクトの一員として海外で被爆証言に出かけます。広島・長崎と第五福竜丸、福島原発。日本の被災の実相を証言する気持ちよりいっそう強くしました。地球上に核があつてはいけない。人類の平和のために。

(69歳 広島 男)

●世界各国の核実験地図を見ると核保有国は植民地や少数民族を犠牲にすることが当然と考えているのがわかりました。日本の原発立地についても、中央政府に同じ考え方があるのではないのでしょうか。マリーシャルの展示はすごく深く広く考えさせられました。

(40代 東京 女)

●日本の船が水爆事件にまきこまれたということしか知らなかった。まわりに住む人たちの被害を考えていなくて落ち込みました。(16歳 東京)



お花見平和のつどい開催



第五福竜丸エンジンが展示館前の広場に展示公開されたことを記念して植樹された八重紅大島桜の咲く4月初旬に毎年集おう、と始められた「お花見平和のつどい」（主催：第五福竜丸から平和を発信する連絡会）は、12回目を迎え、4月6日に開催されました。

今年は例年になく桜が早く開花し、大島桜も盛りを少し過ぎた頃合いで肌寒い日よりでしたが、平和を語り第五福竜丸のエンジンに思いをあらたにしました。

午前中の企画は、展示館の見学をかねて「マーシャル諸島・ロンゲラップの被ばく者たちの半世紀余のあゆみ」を安田学芸員の解説とスライドでたどり、展示館ボランティアのメンバーが、ロンゲラップの人びとの声を読み語りて伝えました。

また、3月初旬にノルウェーのオスロで開かれた核兵器の非合法化をめざす会議の様相についての報告や連絡会の各団体からの平和のとりのくみ報告がなされました。参加者からの発言では、福竜丸の被ばくに関心を持ち、2度の来館で自由研究をまとめた小学5年生の発言に大きな拍手が送られました。

グアムからキャマリンさん来館

3・1ビキニデー集會に参加のため来日した、グアム平和正義連合のキャマリン・キツグアさんが3月2日、来館しました。

1954年当時、福竜丸を始めとした多くの漁船やマーシャル諸島などの



島々と同様、ビキニ水爆の死の灰はグアムにも及びました。アメリカ政府はその事実を知りながらも、現在でもグアム住民への補償は一切行っていません。国土の3割を米軍基地が占め、水爆も配備されるグアムでのピースムーブメントとは、米海軍基地反対の運動です。兵器の実験や訓練から出る化学物質による汚染で、基地周辺住民の癌発生率は異常に高いと言います。

キャマリンさんはビキニデー集會に出席した感想を「日本ではたくさんの方が平和に関心を持っていて素晴らしい」と驚いたように語っていました。

ご寄贈ありがとうございました

立正大学・金子勝研究室より1954年3月の中部日本新聞をご寄贈いただきました。

科学調査船俊鷗丸の元乗組員・三好寿さん（当時・東京水産大学）より、調査中の写真40枚をご寄贈いただきました。ありがとうございます。

ブックレビュー

第五福竜丸とビキニ事件に関する本があいついで出版されました。

◇枝村三郎著『原水爆禁止運動60年』（自費出版 1000円）

第五福竜丸平和協会専門委員、焼津市史編集委員でもある著者による、静岡県の原水爆禁止運動の歴史。運動の記録資料を紹介し、歴史から

事実を謙虚に学ぶことが、いま最も必要になっていると伝えます。

◇中原聖乃・竹峰誠一郎『核時代のマーシャル諸島 - 社会・文化・歴史、そしてヒバクシャ』（凱風社）2007年に刊行された『マーシャル諸島ハンドブック』の増訂新版。「3・11」以降私たちが問われている問題を、〈被曝の歴史〉を生き抜いてきたロンゲラップ環礁の人びとの歩みと重ねて書かれた論考を新掲載。旅行情報などもあります。

◇佐々木英基『核の難民ービキニ水爆実験「除染」後の現実』（NHK出版）

昨年9月15日にNHKBSで放映された「除染された故郷へ」に基づく同番組ディレクターによる記録。再帰島をめぐる揺れるロンゲラップの人びとのインタビューが紹介されています。

◇太田昌克『秘録 核スクープの裏側』（講談社）

日米の核持ち込み密約に関する一連の報道（共同通信）に取り組んだ著者の核論考。福島第一原発事故により日米の「核同盟」は核の傘のみならず、より重層的であることが照射されたと指摘します。

通算来館者500万人記念！ 第五福竜丸絵葉書セット 〈5枚組〉

ダゲレオタイプ（銀板）をもちいて撮影する新井卓さんによる船体写真2点「船首」「新藤兼人揮毫『第五福竜丸は生きている』」と、ビキニ被災50年を記念して撮影された飯田邦生さんの「船を見る子」「船首」など3点。◆ぜひご利用ください。500円+送料100円

